

(外国語活動)

**英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら
コミュニケーションの能力を高める**

大阪市立福島小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「心豊かなたくましい子ども」とし、「児童に主体的な学びと、自立のための力を育む教育活動の創造」を学校経営の重点としている。めざす子ども像に向け、「主体性を育む」こと、「自己有用感や自尊感情を育む」こと、「表現力・コミュニケーション力を育む」こと、「学習習慣を定着させる」ことの4つに重点をおき、日々の教育活動に取り組んでいる。

平成27・28年度は、校内での研究を外国語活動とし、研究を進めてきた。取り組みを始めて2年間の課題として、学年ごとの系統性を意識した学習内容の再調整、Can-Do評価を用いての振り返りシート改善の必要性などがあげられた。また、小学校学習指導要領の外国語活動で育成すべき資質・能力として次のあげられている3点等をふまえて、今年度は、研究主題を「英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションの能力を高める」とし、引き続き外国語の音声や基本的な表現を聞く機会をたくさん設け、インプットの時間を大切にしながら、より多くのコミュニケーションの場を設けることに重点を置き、コミュニケーション能力を高める学習の構築に取り組むことにした。さらに、中・高学年では、アルファベットや初頭音の聞き取りなど、「書く」活動についても取り組んでいくことにした。

2. 研究の概要

(1) 英語を使ったコミュニケーション能力を高める指導方法の工夫

これまで実践してきた外国語活動の指導法について見直し、活動の際の「楽しい」の質を見極め、児童の知的好奇心を満足させられるような活動にするために、次の7点に配慮して指導方法を工夫することにした。

[英語の音声や基本的表現を大切にしたい学習指導過程や指導方法の工夫について]

- ①インプットの工夫
- ②アウトプットの工夫
- ③指導者が All English での指導を目指す
- ④歌やチャンツの工夫
- ⑤書く活動の工夫
- ⑥振り返りシート（Can-do 評価）の工夫
- ⑦板書を生かす工夫

(2) 外国語活動の全体計画・年間指導計画の作成と実践

外国語活動の指導は、児童にどのような力をつけるのかを考え、児童の発達段階に応じた指導方法や学習過程を工夫することが大切である。各学年の外国語活動の年間指導計画を見直し、授業実践を進めていく。また、外国語活動で学習した英語表現を生かし、他教科との関連を今後も図っていく。

(3) 外国語教育の推進

学校生活の中で児童が常に外国語（英語）に触れることができるように、教室や校内の掲示物に英語表記のものを取り入れたり、アルファベットや英単語を階段に貼ったり

している。また、放送委員会の放送では、朝の挨拶を外国語でしたり、給食や昼休み、清掃の際の放送を英語でも行っている。今年度より、毎日5時間目の前に5分間のモジュールタイムに取り組んでいる。歌・アルファベット・ストーリーを順番に取り組み、簡単な英語表現をくり返し聞くことで、自然と身についている。

外国語活動に取り組む際に欠かせない音声教材等の資料の充実化にも努めた。

3. 研究の成果と今後の課題

【研究の成果】

研究テーマを「英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーションの能力を高める」として取り組んできた結果、成果として以下のことがあげられる。

まず、どの学年の児童も外国語活動やモジュールの時間を「楽しい」と感じており、主体的・意欲的に活動することができていることである。外国語活動やモジュールの時間だけでなく、いろいろな場面で簡単な語句や基本的な表現を用いてやり取りをしてきたことで、自然と簡単な英語表現が身につく、新しい表現を知りたい、もっと話せるようになりたいと、児童が主体的・意欲的に活動に取り組むことにつながっていると考えられる。次に、クラスルームイングリッシュを使い、簡単な英語表現でジェスチャーを用いて表情豊かにオールイングリッシュで行うことにより、児童は集中して発問を聞き取ろうと、内容を推測したり、考えたりしながら、活動することができたことである。指導者がオールイングリッシュにこだわることで、子どもたち同士の会話にもジェスチャーも使いながら英語で積極的に表現しようとする姿が見られた。

さらに、中高学年での「書く」活動では、アルファベットの大文字・小文字の書き方の動画を視聴したり、小文字の4線の位置を理解するために動作化したり、初頭音の聞き取りの学習を順次スモールステップを踏んで進めることで、児童は「書くこと」に慣れ親しんできていると感じる。最後に、3年間の研究を通して、外国語活動の授業の組み立てや進め方、クラスルームイングリッシュ、インプットの基本的な手順などを共通理解し進めることで、指導者も手ごたえを感じることができ、自信をもって指導することができた。

【今後の課題】

外国語の音声や基本的な表現を聞く機会をたくさん設け、インプットの時間を大切にしながら学習を進めてきたが、児童にとっては物足りないと感じている様子も見受けられた。3年間のインプットの積み重ねが定着してきており、より多くのコミュニケーションの場を設定する必要がある。授業を組み立てる際に、インプットの時間も大切にしながら、アウトプットのための十分な準備をし、児童が主体的にコミュニケーション活動に取り組めるような場の設定を工夫していくことが必要と考える。また、双方でのやり取りができるように、何か聞かれて答えたら、“How about you?”などと、聞き返すことができるように指導を重ねていく。次に、ふり返しカードを書く際は日本語を使用しているが、終わりのあいさつは英語で行っている。ふり返しカードを書くときも英語で指導するのがよいのか、日本語を使うならどのタイミングがよいのかなど今後も考えていく必要がある。さらに、来年度からの移行措置期間に向けて、全学年において系統的な年間指導計画の見直しや語順を意識しながら「書く」ことの工夫、低学年からの外国語活動のさらなる充実・発展を提案していきたい。